

芋虫

ORUMURA-TABO VOL.1

紙風船、

芋虫、

かみふうせん



2010/4/10(sat)-4/10(sun) @TARA(SHICUVA)

芋虫

登場人物

夫 妻
サブちゃん

芋虫

inspired by 江戸川乱歩「芋虫」

奥村拓
作

『畳敷きの部屋。日本家屋』

映像が流れる。夫と妻の幸せだった頃の思い出。

折り紙を折っている妻。色々なものを折っている。テーブルの上にはハサミ、色とりどりの紙。妻、縁側からのぞく、晴れた空を見上げる。「バカ」と呟いて、うつむく。そこに変なぬいぐるみ男が、唐突に入ってくる。

夫 ただいま〜。

妻 えっ？ 何？ 何？ 何！？ 変態！ ……キヤー！（手当たり次第に物を投げつける）

（暗転）

『夫、帰る』

お茶の間。ちゃぶ台を挟んで正座している夫と妻。

妻 まだ、いじけてんの？

夫 だって……。

妻 変態って言ったこと？

夫 うん。

妻 だって、いきなりそんな格好で帰って来るんだもん。

夫 そんな格好とはなんだ、そんな格好とは。

妻 だってそんな格好じゃん。

夫 ……。

妻 ほら、言い返せないじゃん。

夫 ……。（泣きかけ）

妻 変態。

夫 ……。（泣く）

妻 泣かないですよ、子供じゃないんだから、変態って言ったくらいで。

夫 だって、「変態」って言われる子供は珍しくないし、子供の言う「変態」は冗談であつたりするところとは多々あるし、むしろ女子が男子に言ったりする「変態」は好きな子に対する照れや恥ずかしさからくる愛情表現だったりするわけだけど、大人に対して言う「変態」っていうのは言葉のナイフとしては一級品だと思うんだけど。切れ味、抜群だと思うんですけど。

妻 はいはい、わかりました、変態じゃありませんよ。それより、もう1回ちゃんと説明してよ。

夫 え？

妻 あなたが帰ってきた、いきなり。

夫 (まだちよつと泣いてる)

妻 ……。つまり、あなたが言ってるのは、「こういふことよね。あなたは、赤紙をもらって徴兵された。

夫 うん。

妻 私は兵隊にとられるあなたを駅まで見送りに行った。

夫 あん時は泣いたなあ。

妻 あなたは敵に捕まって捕虜にされた。

夫 男らしく戦死しようと思ったんだけどさあ。

妻 そして、人体実験の道具にされた。

夫 この通り。

妻 まじめなの？

夫 まじめだよ。

妻 おかしいじゃん。

夫 何が？

妻 何が？

夫 何で？

妻 何よ？

夫 ……………。

妻 見りや分かるでしょ？

夫 ……………。(妻をじつと見る)

妻 私じゃなくて！

夫 何を？

妻 あんたよ！(指を指す)

夫 (後ろを振り返って「あんた」を探す)

妻 (殴る)見りや分かるでしょ！ あんたよ！ なんて人体実験でぬいぐるみに改造されるわけ！？ おかしいじゃん！ どう見てもおかしいじゃん！ ありえないでしょ！ 普通にちよつと

かわいいし！

夫 誉めるなよ。(照れる)

妻 照れんじゃねーよ！ 化学兵器の実験台にされて死んだとかなら分かるけどさあ。

夫 夫がこんな姿で帰ってくるくらいなら死んだ方がいいよね。

妻 死ぬとは言わなくてもさ、色々あるじゃない。両手両足がなくなったとか、失明したとか、耳が聞こえなくなったりとか、鼻がもげたとか、あごがしゃくれたとか……

夫 あごはしゃくれないだろ。

妻 冗談はやめて、さっさと脱いで。

夫 えっ！？(色っぽく)

妻 ……(にらむ)

夫 ほつ……ほんとに脱げないんだつて！

妻、夫のぬいぐるみを脱がせようとする。

夫 痛い！ 痛い！

妻 ほんとにはがれない……。

夫 だから言っただろ。なんかね、死ぬと脱げるらしいよ。脱いたら死ぬんだっけ？ どっちかだよ。

妻 いや、それつてけつこう重要なことだよね？ 覚えとこうよ。

夫 こういうぬいぐるみつてさ、体は動かさにくし、手がこんなんだろう？ おもちや売り場とか遊園

地で、風船の紐を持つたり、子供と握手するくらいはできるけどさ、武器とか持てないから。湯

飲みも片手じゃ持てないもん。(やつてみる)

妻 わざわざぬいぐるみにしなくても殺せばすむじゃない。

夫 処刑なんかすると戦争終わつてから「戦争犯罪だろ！」とかうるさいだろ？ だからじゃない

かな。考えたよね、ほんと。

妻 なんかウソくさいい。

夫 だつてほんとなんだもん。

妻 ほんと？

夫 ほんと。

妻 ほんとにほんと？

夫 ほんとにほんとにほんとにほんと。

妻 ……あんたがうちに帰ってきたのも、ほんとなんだよね。

夫 え？

妻 戦争に行つて、消息不明になつて、戦死を告げる手紙まで来て、日本に残した妻を毎日、毎日

泣かせてた、バカ亭主が、バカみたいな格好で戻ってきたのは、夢じゃないんだよね。

夫 う、うん。

妻 バカ。(パンチ)

夫 え？ え？

妻 バカバカバカ！(パンチ×3)

夫 いたいよ。

妻 ……バカ。

夫 ……ただいま。(抱きしめる)

妻 ……ね。

夫 ……何？

妻 ……したい。

夫 何言つてんだよ。

妻 したい。

夫、妻の胸をまさぐる。

夫 あれ？ あんま感じない？

妻 うん……。

二人、ぬいぐるみになつちやつた手を見つめる。

妻 この手じゃね。

夫 手が使えなくても……(舌がある、みたいな感じで)

妻 ここじゃだあ。

夫 そうだな。

夫、妻、奥の寝室らしき部屋へ行く。

酒屋のサブちゃんが玄関口に現れる。

サブ こんにちは。酒屋です。……もしもし？……もつしもつし？ 誰もいませんか？

家の中を除いてみても誰もいない。表の物干しに洗濯物(下着)が干してあるのを見つける。

サブ いませんよね？ いないとしたら俺は誰に確認してんだよ！ とかつて一人ツツコミしてもクスリと笑ってくれる人っ子一人もいませんか？(念のためにモノマネorコネタを試みるサブ)。よっし。いないな……憧れの奥さんのパンティ……(念のために下着にも確認してみるサブ)触っていいですか？ 触りますよ？ ……(触る)匂いを嗅いでもいいですか？ そんな禁断の花園にまで手を出しちゃいけませんかね？ いいですよ？ ありがとう(パンツといえどちゃんとお礼を言うサブ)……(匂う)奥さんっ……かぶつていいですかね？ いや、それはいけない！ 人間としてのモラルの範疇を明らかに越えている。いいのか？ いいのかサブ！ 酒屋のサブ！ いけない！ この手がいけないんだ！ 手だ！ このやろう！(手と格闘)うおおおおお！(手との葛藤に負けて。パンツをかぶるサブ)奥さんっ！ 奥さんっ、奥さ……ん！！！！

夫、現れる。

夫 ……何してるんですか？

サブ ……変態！ 変態だ！

夫 どつちが変態だよ！

サブ 変態！ 変態！ この変態！

夫 お前が変態だ！ この変態！

適当に二人、罵倒し合う。妻、現れる。

妻 あなたら、なかつたら別にいいわよ……キヤ！ 何してるの、サブちゃん。

サブ おつ……奥さん！ 変態を発見しました！ 変態！ 山田サブ16歳、決死の覚悟で奥さんの家に不法侵入した変態ぬいぐるみ野郎を捕まえました。

妻 サブちゃん。

サブ はい、なんででしょう！

妻 顔。

サブ へ？ 顔？(顔を触る)……ちつ……違うんです！ 陰謀です。策略です。クーデターです。

妻 いいからとりあえず、脱いで。

サブ はいっ。(脱いで、ポケットにしまう)

妻 何でしまうの。

サブ すみません。(かぶる)

妻 サブちゃん！

夫 誰？

妻 酒屋の山田さんとこのすえつこのサブちゃん。5人も息子さんいらつしやったじゃない？ でも

上の4人の息子さんはみんな戦争にとられちゃつて……。で、お父さんはもう、年だし。サブち

ゃんが配達手伝つてんのよ。

サブ 手伝つてんすよ！

夫 なんて偉そうなんだよ。

サブ お前こそなんだよ、その格好は？

夫 お前に言われたくない。

妻 ウチの旦那よ。

サブ え？……コレが？

妻 コレが。

夫 コレ抜い？……まあ、いいや。俺、アレ買ってくるわ。

妻 うん、いつてらつしやい。

夫、出て行く。

サブ 旦那さん、帰ってきたんですね。

妻 うん。

サブ 亡くなったんじゃないかったですか？

妻 うん、でも、誤報だったみたい。

サブ ああ。

妻 うん。

サブ あるんですね、そういうの、本当に。

妻 だね。

サブ よかったですね。

妻 うん。

サブ 寂しくなるな。

妻 ？

サブ ……あ、いえ、天気いいですね。

妻 そうね。

サブ 五丁目の木村さんとおじいさん、ギックリ腰になっちゃたんですって。

妻 そうなの。

サブ 三丁目の沢田さんとおのデブ猫、みんな妊娠してるって言ってたんですけど、便秘だったんですって、「生まれる！ 生まれる！」って近所の人みんな集まってたんですけど、出てきたのはこんなにデッカイうん……

妻 (微笑んでいるがサブの話に対してではない)

サブ (なんかよくわからないけどとにかくおもしろそう話)

妻 (微笑んでいるがサブの話に対してではない)

サブ ……もう注文とりにこないほうがいいですか？

妻 ……あ、注文ね！（あんまり聞いてなかった） 今日はいいわ、大丈夫。

サブ や、すみません。また明日来ます。

妻 あ、まだお酒あるから。また来週でいいわ。

サブ あ……はい。あの、もう来ないほうがいいですか？

妻 え？

サブ 毎日注文に何うと、たくさんお話してくれたけど、全部、あれ、暇つぶしだったんですね、

妻 ……すみません、帰ります。

妻 怒ってる？ ごめん。

サブ なんで謝るんですか？

妻 怒ってるみたいだから。

サブ 怒れば、あなたは何をしてなくても謝るんですか？

妻 そんなことないけ……

サブ 怒って頼んだら何でもしてくれるんですか？

妻 サブちゃん？

サブ 頼めばやらせてくれるって本当ですか？

サブ、妻を押し倒す。

妻 何？ やめて！

サブ 奥さん、ずっと俺、奥さんのこと好きでした。初めて会った時から好きでした。だから、やめ暮らしの奥さんが、酒屋なんか毎日、用があるわけなんてないのに、毎日毎日伺って注文を聞きに来ました。「サブちゃんと話していると楽しいわ」って言うてくれた時、胸がキュンってしました。こんな僕でも、恋をしたことなかったわけじゃないんですよ。でも、本当にキュンなんていうわけねえじゃんかっつと思っていました。

夫、帰って来る。サブが妻の上に乗っているのを見て止めに入ろうとするが、やめる。

サブ 俺、奥さんからお金をいただいて、お釣りを渡す時が毎日の楽しみでした。奥さんの手に触れられるんですよ。いつも、「お釣りが出るといいのになあ」って思っていました。不思議なことに毎日お釣りが出るんですよ。最初は、なんて俺は運がいいんだって思っ、一人でうかれてました。

妻 ……。

サブ でも、気づいたんですよ。お財布を見た時に。細かいお金もあるのに、奥さんがわざと大きなお金を出して僕の手に触った。

妻 ……。

サブ 楽しいですか？ 気をもたせるのって、楽しいですか？

妻 ごめん、楽しいとかじゃなくて、なんか可愛かったし、そういうの……気付いてたけど、気付いてたからんですけど……でも別に

サブ 寂しかったからですか？

妻 ……？

サブ いろんな人に抱かれていたのは、寂しかったからですか？

妻 なんで？

サブ 僕が質問してるんです。

妻 言わないって、約束したのに……

サブ みんなが悪いですか？

妻 ごめん。

サブ あなたが悪いですか？

妻 わからない。

サブ、もう1度襲い掛かる。妻拒む。

サブ 俺、赤紙来たんです。

妻 ……。

サブ、襲う。

妻 ごめん、ごめんね。

『妻は抱かれた』

『その日まで女を抱いたことがなかった少年に 淫売と罵られながら』

『妻は 夫が戦争に行っている間 15人の男に抱かれた』

『少年は泣いた』

『妻は泣いた』

『夫はそれを見ながら』

『マスターベーションをした』

『玄関で クマのぬいぐるみを着た男が 犯される妻をオカズに』

『マスターベーションをした』

柱に股間をこすりつけ、射精して、ちよつとぐったりな夫。

事を済ませ出て行くこうとするサブ。

サブ 奥さん。

妻 ……。

サブ 赤紙が来たっていうの、あれ、嘘です。

サブ、去る。

間

夫が入ってくる。

夫 ただいま。

妻 おかえり。

夫 寝てた？

妻 う……うん。今日、ほら、ぽかぽかあったかいから、うとうとしちゃった。

夫 そっか。

妻 アレは？

夫 アレ？

妻 コンドーム。

夫 あつ、ああ。サイフ忘れちゃつて、買えなかった。

妻 ……にしては、時間かかったね。

夫 あゝそつ、そうだな。なんか、近所の子供に見つかつて「変なやつがいるぞお〜！」つて追っかけられてた。

妻 子供にいじめられてる。

夫 いじめられてねえよ。

妻 だつて……その染み何？

夫 えつ！？ い、いや…これはつ……あ、あれだ、残尿だ！ 残尿！ 誰に何と言われようと残尿！

妻 おもらし？

夫 ばか。ちげえよ。残尿だよ。

妻 だからおもらしじゃん。(時計を見る)そろそろご飯の時間。お腹減つた？

夫 うん。今日の夕飯、何？

妻 帰るときは電話くらいしろっつーの。

夫 すまん。

夫、妻、笑う。

妻 ごめん、今、何も無いな。残り物でいい？

夫 うん、なんでもいい。

妻、台所へ行き残り物をとつてくる。その間、夫は机に置いてあつた折り紙を手の上に。遊ぶ、うまく遊べない。折り紙を折ろうとする、折れない。折り紙を切ろうとする、切れない。ハサミを手に刺す、手からは血が出る。

夫 こんな体になつても血い、出るんだな。

妻、盆を持つて戻つてくる。

妻 ……どうしたの？

夫 ……あ、なんか、間違えた。

妻 間違えたつて！ ちょっと待つて……

妻、再びはける。

妻 はい、手出して。(マキロンをかける)

夫 痛い！ 痛い！ おいつ！

妻 何？

夫 マキロンは違うだろ。

妻 なんです？ ケガにはマキロンでしょ。

夫 なんでもマキロン？ お前の常識ではケガならなんでもマキロン？ 交通事故で瀕死でもマキロン？

………あそこを落とせば一気に戦局が変わる。待て！………俺が行く。お前は援護を頼む！

ババババババババ。うっ、しまった右腕を撃たれたああ！ マキロンを……マキロンを頼む！！！！！！

妻、マキロン発射。

夫 痛い！ 泣くよ？ 泣いちゃうよ？ 転んだ時とかはバイキンはいるからやるけど、コレ切り傷

だろ。消毒関係ないだろ？ 無駄に染みるだけじゃ……

妻 もう、うるさいなあ。(なぶにマキロン)

夫 (奇声)

妻、包帯を巻く。

妻 はい、終了！ ごはん、たべよっか？

夫・妻 いただきます。

妻 (おいしそうに食べる)

夫 (お箸がなくて食べれない)

妻 あっ、ごめん。気が付かなくて。

夫 ありがとう。

妻 (お箸を持ってくると思いきや、水を持ってくる)

夫 ……。

妻 (おいしそうに食べる)

夫 ……。

妻 あれ？ 食欲ない？

夫 じゃなくて……

妻 あっ！(ダッシュ)

夫 ありがとう。

妻 ごめん、いきかなくて。(コシヨウを渡す)

夫 ……。(ご飯と味噌汁と漬物を見つめる)

妻 (おいしそうに食べる)

夫 (泣く)

妻 ごめん、ごめん。冗談じゃない。

夫 もう一生何も食べれないかと思った。

妻 大げさなんだから。はい、あーん。

夫 (もぐもぐ)俺のお箸も持ってきてよ。

妻 ないのよ。

夫 なんて。

妻 だって、戦死を伝える手紙がきたのよ。捨てるじゃん！

夫 形見とかにとつとけよ！

妻 戦死の手紙が来たその日に全部、捨てたわよ。

夫 その日つて、もうちよつと待てよ。しかも全部つて。

夫、ダッシュでいろんなところを物色。

夫 何もねえ。

妻 しょうがないじゃない。

夫 ……。

妻 毎日泣いたんだから。台所に立つと、思い出すの。新婚の頃、料理の不慣れな私を心配して、ずつと後ろに立つて私が指を切らないか心配して見てるあなたがいた。

夫 お前、イライラしてうつとおいって怒って包丁振り回したよな。本気で殺されるかと思った。

妻 一人で夜、床につく時は、私を抱いた後のあなたを思い出すの。照れくさそうに布団の中から出ると、私から離れるのを申し訳なさそうにそこに座つて、たばこに火をつけて、後ろを向いてるあなた。恥ずかしいなら、下着をはいてからにすればいいじゃないって言うて……

夫 バカつ、お前がまだ何も着てないのに男の俺が先に服を着れるか……

妻 そうそう。そうやって怒るの。普段はだらしないのにそういうどうでもいいことばかり気にして……

夫 ……。

妻 この部屋にはたくさん、たくさん、あなたがいて、私、耐えられなかった。あなたの読んだ本を捨てた、あなたの歯ブラシを捨てた、あなたのお箸を捨てた、あなたの洋服を捨てたあなた……。

夫 ぬいぐるみで帰ってきてよかったかもな。俺の服、一着も残ってないんだもんな。

妻 ごめん。

夫 ……この家に染みついた俺を、全部消したかったから？

妻 ……。

夫 消しなかったから、寝たの？ 俺以外の男と？ 男たちと。ここ。

妻 ……。

夫 いいよ、わかつてる。俺のこと愛してたからこそ、寂しかった、しょうがないよ。お前のことを憎む

べきじゃない。戦争を憎むべきだよな。こんなこと始めたやつ等が悪いんだよ。お前は被害者だ。
妻 ……。

夫 ……なんて、言うと思った？

妻 ……ごめん。

夫 何が？

妻 ……

夫 誰のせい？ 帰ってこなかった俺？

妻 違う。

夫 お前と結婚した俺？

妻 違う。

夫 戦争？

妻 ……

夫 お前？

妻 ……

夫 お前に付け込んだ奴？

妻 ……

夫 俺？ お前？ 戦争？ 男？ 性欲？ 寂しさ？ 俺？ お前？ あいつ？ どいつだよ、なん

だよ。なんか言えよ。なんでもいいから言えよ。

妻 ……わかんない。

夫、立ち上がる。

妻 ごめん。

夫 ……何が？

妻 ……

夫、去る。

(暗転)

『電車のホームに佇む夫。少年が駆け寄る』

夫 どうした坊主？ おじさん変な格好してるか？ え？ かわいい？ ありがとう。

『少年の母親が来る』

夫 え、いや別に変なことはしてません。怪しい者じゃないんです、本当に怪しい……（自分の姿を
思い出す）……そうだよな……すみません。

少年と母親を見送る、夫。電車の近づいてくる音。

夫 怪しい者じゃありません……

突然、笑い出す夫。電車の音が徐々に大きくなる。

夫 怪しい者じゃありません怪しい者じゃありません怪しい者じゃありません怪しい者じゃありま
せん……（高らかに、笑う）

夫、身を投げる。

（暗転）

『電車が通り過ぎた後には 血だらけになったぬいぐるみが落ちていたが』

『中に人の姿はなかった』

『一人の少年が言った「僕、ぬいぐるみを着たおじさんを見たよ』

『その母親は言った「私は見ていません、何も』

『少年には軽度の知的障害があった』

『全ては 事件にさえもならなかった』

妻、茶の間にはいつてくる。ちゃぶ台の上の置手紙に気づく。手に取り、読む。

『ぬいぐるみの不器用な手で 手紙にはこう書かれていた』

『「ユルス」』

呆然と立ち尽くす妻。夫を追うために出ていこうとするが、立ち止まる。歩けなくなる。

妻 バカ。

妻、部屋を彷徨する。

妻 誰か、お願いです、私を抱いて下さい。……私を抱いて下さい！ 抱いて下さい！ 誰か！

芋虫

妻、叫びながら家を出る。

映像。それは夫と妻が幸せだった頃の思い出。

初稿：2003年

初出：2004年（LOL5号）

改稿：2010年1月

初演：2010年4月

奥村拓・オクムラ宅

okumurataku@gmail.com

<http://okumurataku.com/>

幕